

## 平成30年度 学校評価計画表

教育目標	◎「スポーツ(部活動)を通しての人づくり」をスローガンとし、たくましい体力と豊かな情操を育むとともに、確かな学力を身につけさせ、自己の進路を確保させる。 ◎社会の中で自立して生きていくための基礎基本を学ぶ学校。		総合評価
運営方針 (重点目標)	○挨拶の励行や適切な言葉遣い及び時間を守る指導を徹底する。 ○校内美化の徹底及び学習環境と身だしなみを整えさせる。 ○授業、部活動、学校行事等に自主的・意欲的に取り組む態度を身につけさせる。		
29年度の成果と課題	本年度の具体的目標	具体的方策	
平成29年度は、「学習意欲を喚起し、学力の向上を図る」「ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身につけさせる」などを重点目標として取り組んだ。学力補充、促進講座などを実施し、学習意欲の向上、成績不振科目の減少が見られ取組の成果が出てきている。これを進路実現に繋げさらに高めていきたい。また細かなことから繰り返し指導することで、ルール・マナーを守ることの大切さを理解させ、規範意識向上に向け継続した指導を展開していく。 学校評価アンケートから校舎内外の環境美化についてあまり行きとどいていないと考えている割合が多いことから、生徒の学校美化についての意識づけが大切であり、学校全体としても検討していかなければならない。 学校評議員や地域の方からも、地域とともにある学校としての取り組みに対して一定の評価をいただいている。今後も取り組みを通して地域との連携強化を図るとともに、広報活動にもさらに力を注ぎ、活力ある学校づくりを進めていきたい。	・学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	学習習慣の定着 ・予鈴入室・チャイム始業 ・課題提出徹底・学力補充講座 ・授業研究充実	
	・ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身に付けさせる。	規範意識の醸成 ・挨拶の励行・身だしなみ指導 ・適切な言葉遣い・3秒礼の励行 ・遅刻防止指導・清掃活動の徹底	
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることをとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	部活動等の活性化 ・部経営の魅力化・体験入部の充実 ・競技力の向上・クラブ員集会充実 ・ボランティア体験	
	・学校評価の推進を図る。	学校評議員会の活性化 ・学校評価システムの構築(評価指標の見直し) ・全教職員による学校づくり	
	・情報収集及び広報(情報発信)の強化を図る	学校案内の強化 ・学校HPの充実(内容・計画的更新) ・学校通信(育友会報含む)の充実・保護者との連携強化	
	・「学校コミュニティー協議会」での熟議をとおして、地域との連携・協働を図り、地域と共にある学校づくりを進める。	地域と共にある学校づくり ・学校コミュニティー委員会の活性化 ・学校コミュニティー協議会の充実 ・広陵町との連携強化	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
総務部	・積極的な情報発信	・HPの内容の充実および各イベントの豊富な情報提供かつ迅速な発信を心がけ中学校等外部への情報強化を図る。特に、部活動のページでは年2回の研修を持ち各顧問に編集をマスターしてもらい、充実した内容かつ計画的にタイムリーな更新を年2回以上する。 A 更新(行事)は7日以内				
		・本校の魅力をアピールできるよう、学校案内パンフレットの内容を見直し、デザイン等を工夫する。				
	・保護者および育友会との緊密な連携	・保護者が学校教育活動に関心を持ち、諸活動に進んで参加してもらえるよう情報を発信していく。また、ホームページ・育友会報誌(年2回発行)等を活用して育友会活動を広報し、活動への協力も促していく。さらに役員会、評議員との合同会議の開催時間を固定化しない案を提示し、多くの保護者の方に話し合いに参加していただけるようにする。				
	・奨学金の円滑な申請	・高校奨学金制度の申請手続きの方法を周知徹底させるため入学式後、新入生保護者に説明を行う。また、各種奨学金の案内の教室掲示を拡大し、生徒が奨学金を申込易い環境を整える。さらに、高校生等奨学給付金制度と支援金が生徒・保護者が混乱しないよう一層理解しやすい資料を作成し、個別対応を行う等の工夫に努める。 ・3年生の進学予定者対象に日本学生支援機構(予約採用)奨学金の説明会を実施する。今年度は給付型の奨学金ができたので、提出書類等の誤りがないように指導をする。また、インターネット(スカラネット)による申込がスムーズにできるよう、3年生の教員と連携を図る。				
・魅力ある学校紹介行事の企画・実施	・オープンキャンパスの夏休みのクラブ体験受け入れを強化し中学生にアピールする。また、全体会の更なる充実を目指し、企画・運営方法を工夫する。特に部活動紹介では動画の導入や本校生による説明を通じてよりわかりやすく魅力あるものにして興味を持たせる。また、全職員が協力して学校紹介事業に参画する。 A 参加者満足度90%以上					
	・オープンキャンパスの一環として、中学生の学校訪問や、部活動の体験の受け入れを積極的にし、開かれた学校を目指す。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教務部	・学習習慣の確立 ・学習意欲の向上 ・基礎学力の定着	・予鈴入室、本鈴始業を守らせる。教員についても予鈴で教室に待機するようお願いをする。 A 達成率 85%以上(生徒アンケート)				
		・各種オリエンテーション、シラバス等により科目の評価方法、各コースの設置趣旨を生徒に確実に伝え、生徒の授業や家庭学習に取り組む姿勢・意欲の向上を図る。 ・成績不振者講習の評価について、客観性にとらわれず、妥当性・公平性・信頼性を欠くことのないよう評価を実施すると共に、前向き・意欲的な姿勢を的確に受け止めて評価し、生徒の「やる気」の向上を促す。 A1 私は授業に意欲的に取り組んでいる。 A2 私は定期考査前に家庭での学習をきちんと行っている。(生徒アンケート) A1・A2 平均75%以上				
		・6月の期末考査前の学力補充講座を学力促進講座に切り替える。また、本年度も2学期中間考査前に学力促進講座を行い、学力の中位～上位層の生徒の学力向上を促す。また、この取り組みにより「不振生徒を支える学校」と共に「学力をさらに高める学校」という生徒・保護者の受け止めを図り、校内の学習気運向上と愛校心向上を図る。(生徒アンケート) A 普段も家庭学習に取り組んでいる 40%以上 A 私は大和広陵高校に入学してよかった。 70%以上				
	・生徒の学習進捗状況を把握し、必要な生徒に対して、考査前に各学年年間5回の学力補充講座を行う。 A 生徒の参加率 年平均70%以上					
	・教育課程、評価方法等の改善	・観点別評価に基づく定期考査の作成・実施について、教科主任者会で試行を検討する。 ・学習指導要領の改訂に伴う教育課程の改訂について、各教科で準備を進めてもらう。				
	・情報の適切な管理と情報機器の有効活用	・出欠管理、成績処理システムの管理運用技術について、分掌内での共有を図る。また、昨年度に引き続き、必要に応じてシステムの改良を行う。 ・指導要録の一部デジタル化を行う。 ・次年度予定の県成績処理システムの変更(観点別評価の導入)について研修を行う。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導部	・基本的生活習慣の定着	・挨拶を進んで行うことの出来るよう、生徒会本部役員・クラブ員が校門・玄関で挨拶運動を行う。				
		・全ての生徒に時間を守る生活習慣を身につけさせるため、遅刻生徒には放課後課題を課す。 <b>A 遅刻総数前年度比 10%減</b>				
		・生徒との会話の機会に適切な言葉遣いを教員が教えることのできるよう、教員自身の意識を向上させる。 <b>A 生徒アンケート達成度 80%以上</b>				
生徒指導部	・生徒の規範意識の向上を図る	・高校生として身につけておくべき常識的な行動を取ることのできるよう、日常の教育活動から公德心を養う。				
		・日々の教育活動と道徳教育HRをととして規範意識の向上を図る。 <b>A 問題行動総数前年度比 10%減</b>				
生徒指導部	・部活動の活性化	・部活動に積極的に参加させ、その活動を継続できるように活動環境を整える。 <b>A 部活動入部率 60%維持 (6月時点)</b>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権教育部	・「自他敬愛」の精神の高揚	・全教育活動を通して、生徒の人権意識を高める。 A: 生徒アンケート「人権意識の向上」 70%以上					
		・今年度の人権テーマを設定し、各クラスに掲示したり、人権啓発の広報紙を配付することにより、普段から人権問題を考え、お互いに尊重し合う人間関係を築くための取り組みを行う。					
	・人権作文の取り組みの充実	・夏休みの課題として、人権作文を書くことを通して、自らの人権意識を確認したり、社会にある様々な人権問題に気づき、自己を高められるような人権作文HRに取り組む。					
		・人権作文を書く意義などを説明する資料を配付して、事前指導を行う。 ・夏休みの学年登校日に、人権作文を提出させて、2学期の始業式当日には、全員提出できるようにクラス担任と連携して取り組む。 A: 人権作文の提出率 100%					
		・各学年と連携を深めながら、人権HRの充実を図る。人権教育部で指導案を作成し、実施直前の学年会議で研修会をもち、内容の検討を行い、本校生の実情に応じた内容で、HRを展開し指導する。					
	・人権HRの取り組みの充実	・校内外の研修を通して、教員自身の人権意識の向上を図ったり、最新の知識を習得し、力量を高め、HRでの指導に生かしていく。 ・職員に対して各種研修会や研究会の案内を行い、事務室とも連携しながら自主的な研修を促していく。					
		・HR事後メモを通して、実施した人権HRの課題点や生徒の様子を集約し、今後の人権HR指導案の改善や指導に生かしていく。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
進路指導 キャリア教育	・進路目標の早期確立と望ましい職業観・勤労観の育成	・3年間を見通した系統的な進路HRや総合学習の時間の取り組みを通して、自らの将来を展望し、確かな目的意識を持って自己実現に向けて取り組む姿勢を育てる。 ・学期末に「進路だより」を発行する。 A 生徒アンケート 満足度60%以上				
	・進路実現の支援	・生徒・保護者の考えを理解し、満足した進路が実現できるよう進路相談の機会を大切に にする。 A 生徒アンケート 満足度60%以上				
	・進路保障の取り組みの強化	・就職指導について、企業訪問を充実させる。また、WEB公開求人についても検索を強化して、安定した求人件数を確保する。 A 企業年間訪問60社以上 A 学校斡旋就職希望者の内定率100%				
	・学校外の教育力を活用したキャリア教育の推進	・高大連携校をはじめとする学校外の教育力を活用することで、キャリア教育のさらなる推進を図る。 ・職員研修の機会を設定し、進路を取り巻く環境や指導方法などについて研修を深める。 A 職員研修を年1回実施する。 A 生徒満足度 60%以上				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
環境整備	・校内美化の推進	・通常清掃の活動の徹底をはかる。環境整備部の清掃点検を実施、清掃担当者にフィードバックし、清掃活動の充実をはかる。 A:週一回の部による点検作業の実施						
	・ゴミの分別の徹底	・各ホームルームにおける担任からの生徒への啓発活動をはかるとともに、生徒美化委員によるポスター作成及び掲示する。それにより全校生徒の協力を呼びかけ、ルール遵守の意識を高める。(校内美化・ゴミ分別の徹底) A 生徒アンケート調査結果「ゴミが落ちていたら拾う。」50%以上。						
		・ゴミの分別の習慣化を確実にするとともに、集団におけるさまざまなルール存在を認知させ、守ることの大切さを意識させる。(ゴミ集積場での確認。) A 生徒のアンケート調査結果「分別に従ってゴミを捨てる。」80%以上。						
	・緑化運動の推進	・校内3ヶ所の美化委員管理花壇での美化委員による草花の栽培管理の実施。 ・美化委員による水やりを実施する。						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・ 分析)及び改善方策
文化図書	・図書館教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生対象の図書館オリエンテーションを始め、学校活動全般において図書館にある本のアピールを積極的に勧め、利用頻度の向上を目指すとともに、調べ学習にもつなげていく。</li> <li>・図書館司書との連携を密にし、図書委員の活動をさらに活発にし、図書館を活気あふれる場にする。</li> </ul> <b>A 貸出数 前年度比15%増</b>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新着任者や図書委員等からの図書の紹介をする機会を増やすことにより、生徒の図書館利用を積極的に促す。</li> <li>また、読書感想文やストーリー創作、おはなし会を通して、生徒が読書に親しむ機会を設ける。</li> </ul> <b>A 読書感想文提出率 100%</b> (長期欠席者を除く)					
	・視聴覚教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚室を積極的に使ってもらえるよう、運用面での効率化や液晶テレビ、DVD CDソフトの使用率の増加を図る。</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材(DVD・CD・ビデオ)を利用した効果的な授業や学校行事の展開に協力する。</li> </ul>					
	・文化活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭において多様なジャンルの芸術鑑賞を企画し、様々な文化に触れる機会を生徒に与え、芸術を鑑賞する態度を養う。</li> </ul> <b>A 芸術鑑賞会事後アンケート満足度 85%以上</b>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなし会や新春カルタ会など文化的活動体験を積極的に実施し、国内外の様々な文化に触れる機会を持たせる。</li> </ul>					



評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育部	・健康教育の実現	・生徒のニーズに合わせた資料を定期的に作成し、生徒の健康意識の向上に努める。また本人だけでなく保護者にも伝わるよう保健だよりを有効なものにしていく。 A 学期に一回資料(保健だより)を発行する。					
	・保健室との連携	・保健室、来室生徒の状況について、学年・クラス担任と連携し、情報を共有する。 A 学年会議等で情報交換を図る。					
	・食育の推進	・飲食物についての意識を向上させるため、校内のジュース販売の内容改善を継続して行う。 A 食に関する講演会を実施する。					
	・生徒の体力向上	・トレーニングの必要性について理解させ授業でトレーニングを充実させることにより、トレーニング方法の習得や日常的に実施できる能力を育てる。また1学期の授業では10分間走を実施し、運動習慣も身につけさせる。 A 学期中にトレーニングの評価を2回程度実施する。					
		・持久走を毎学期実施し、体力の向上を図る。 A 従来の1, 5倍で実施する。					
		・体力向上への取り組み及びスポーツテストの意義や方法について授業を展開し、各種目の数値を向上させる。 A 全学年において「体づくり運動」の取り組みを充実させスポーツテストの記録向上を目指す。					
・運動部活動の活性化	・運動部員集会を行い、アスリートとしての資質の向上を図る。 A 運動部員集会の実施 毎月1回、学期に1回以上 運動部・文化部合同の清掃活動を実施する。						
	・新入生体験入部制度を実施し、部活動への加入を促進する。 A 体験入部を100%完了させ、新入生部活動加入率50%以上を達成する。						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育相談室	・広報と研修の充実を図る	・生徒や保護者に、スクールカウンセリングの案内を行う。 ・教職員、生徒向けに『教育相談だより』を発行する。 A 年2回発行					
		・教職員向けに職員研修を実施する。 A 年1回実施					
	・支援の必要な生徒の把握に努める	・中学校訪問情報・生徒アンケート回答・各学年会議における情報交換等とおして、支援が必要な生徒の実態を把握する。					
	・生徒についての的確な情報交換と教職員連携を図る	・定期的に教育相談室会議を開き、生徒についての情報交換を行う。					
		・必要に応じて、「ケース会議」「教科担当者連絡会」を開催し、支援や学習指導が必要な生徒について、情報交換を行う。また、定期的に職員会議で報告を行う。					
	・相談活動の充実	・生徒指導部や進路指導部・養護教諭等、他分掌と連携しながら、クラスや生徒の状況に応じた相談活動を実施する。					
		・不登校や問題行動等、ケースに応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関(教育研究所生徒指導支援室教育相談係・特別支援教育部等)との連携を図る。					
・教育相談ルームを有効に活用する。							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生涯 スポーツ科	・実習の充実	1年生キャンプ実習 事前指導を充実させ、自然の中で安全に行動し、仲間と協力しながら信頼関係を築かせ、達成感を高める。 A 生徒の実習日誌アンケートで活動の達成感90%以上					
		2年生スキー実習 インストラクターの指導を吸収し、効率よく上達できるようにする。 A スキー検定3級取得率80%以上					
		3年生マリンスポーツ実習 インストラクターの指導を吸収し、効率よく上達できるようにする。 A マリンスポーツ各種目の達成感90%以上					
	・部活動の充実	日常の体育授業から体力向上を目指す。 A 毎時間の補強運動を正確に行い、運動強度を増加させる。					
		生徒の悩みや問題に対して部顧問と担任が連携を図り、心と体の安定を保ちながら人間性、競技力向上を目指す。 A 前年度を上回る競技力の向上					
	・成績不振者の減少	日常の授業を大切にし、聞く姿勢や理解、考える力をつける。学習活動最優先を生徒に理解させ、授業や学校生活の様子等関係教員で連携を図っていく。 A 学期末の成績不審者講習対象者各学年10%未満					
提出物の提出率を向上させる為、関係教員と連携を図りながら進めていく。 A未提出率5%未満							

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校事務	・授業料の納期内収納	・過年度からの未収授業料については、その徴収事務取扱要綱等の関係規定に基づく手続きを着実に執ることにより、未収の解消を図る。				
		・現年の授業料については、事務職・教職の連携を密に文書通知や対面での納入啓発を図る。				
		・就学支援金制度についての周知を徹底し、遺漏無くその申請が行われるよう啓発していく。				
・光熱水費等の節減	・季節に応じた電力消費となるようデマンド監視システムの効果的な活用を図る。					
	・省エネ環境意識の醸成を図り、無駄無理の無い節電、節水に努め、経費の縮減とともに経費の効果的な使用への工夫に取り組む。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	・高校生として、基本的な生活習慣を確立させ、ルール・マナーを守る態度を養う	・HR・学年集会等で服装を生徒自ら正すことの大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上					
		・HR・学年集会等で毎日登校することの大切さ、時間を守ることを教える。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減					
		・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上					
		学習環境を整え、積極的に校内美化に努める姿勢を養う。 A 生徒アンケート達成度85%以上					
	・学習習慣を身につけさせ、学校生活を充実させる。	・予鈴での入室を徹底し、チャイム始業の定着をはかる。 A 生徒アンケート達成度85%以上					
		・小テスト・課題提出を含め学習の大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上・					
	・積極的にクラブ活動に参加させる	・部活動参加を積極的に勧め、多くの生徒を、クラブ活動に参加させる。 A クラブ加入率 50%以上					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第2学年	・ルールやマナーを守ることの大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身に付けさせる。	・HR・学年集会等で服装を生徒自ら正すことの大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
		・HR・学年集会等で毎日登校することの大切さ、時間を守ることを教える。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減				
		・HR・学年集会等で社会や学校のルールを守る大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
		・適切な言葉遣い・挨拶の励行を指導する。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
	・学習意欲を喚起し、学力の向上を図る。	・予鈴で入室し、授業の準備をする。授業に意欲的に取り組ませる。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
		・定期考査の大切さを認識させ、全力で取り組ませる。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
	・部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることをとおして、豊かでたくましい心身の育成を図る。	・部活動参加を積極的に勧め、多くの生徒をクラブ活動に参加させる。				
・修学旅行	・修学旅行を通じて集団活動の大切さを身につけさせる。 A 生徒アンケート達成度85%以上					

評価項目	具体的目標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
	(評価小項目)					
第3学年	・学習意欲を喚起し、授業を大切に学力の向上を図る。また自己の進路実現のため、積極的に行動する姿勢を育てる。	a:予鈴着席・チャイム始業の定着をはかる。 A 生徒アンケート達成度90%以上				
		b:考査・課題提出等を含め学習の大切さを教える。 A 生徒アンケート達成度90%以上				
		c:生徒の進路決定率の向上を図る。 A 進路決定達成率85%以上				
	・諸活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。	d:最上級生として、部活動や委員会活動にその中心となって取り組む。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
		e:学校行事に積極的に取り組む姿勢を育てる。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
	・社会人として必要な生活習慣やマナーを身につける。	f:正しい服装をすることの意義、大切さを理解させ、実践させる。 A 生徒アンケート達成度90%以上				
		g:しっかり挨拶をする大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度90%以上				
		h:正しい言葉遣いの大切さを理解させ、生徒自ら実践できるよう指導する。 A 生徒アンケート達成度85%以上				
		ひたむきに取り組む大切さ、時間を守る大切さを理解させる。欠席・遅刻をしないように指導する。 A 欠席数・遅刻数前年比10%減				